

10-03-1979 Nakamura

請

通



実用新案登録願

招請書類の提出を差し出

昭和53年3月29日

特許庁

殿

1. 考案の名称 連隔操作にて着脱するワンド接手

2. 考案者

住所 (居所) 兵庫県赤穂市元湯町17-15

氏名 中村秀雄

3. 実用新案登録出願人

郵便番号

678-022

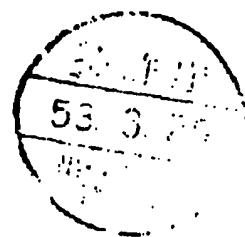
住所 (居所) 兵庫県赤穂市元湯町17-15

氏名 (送り代表者の代名) 中村秀雄

4. 添付書類の目録

- (1) 明細書
- (2) 図面
- (3) 願書副本
- (4) (出願審査請求書)

1	通
1	通
1	通
1	通

式査
方審

53 039737

54-142770

BEST AVAILABLE COPY

DCB-239.A

明細書

1) 考案の名稱

遠隔操作にて着脱するワンタッチ接手

2) 実用新案登録請求の範囲

蝶形接手本体(1)の外面と外筒上部(3)及び
外筒下部(4)の内面を利用し、リバウンドバー
を形成し、内部に加压させ、外筒上部(3)及び
外筒下部(4)を移動させる事にて着脱する接手

3) 考案の詳細な説明

この考案は遠隔操作にて着脱するワンタッチ接手
に関するものである。

従来のワンタッチ接手は遠隔操作にて着脱が
出来なかったし、大口径の品物は非常に操作が
困難であり、ワンタッチ接手が採用されなかつた。

また外筒にての品物が当たる簡単な外れ
不便があり、高所の接手としては大変危険であつた。
この考案は簡単な構造にて上記の欠点を除去
することを目的とする。

この考案を図面にひとつづて説明すると、
雌形接手本体(1)に、雄形接手本体⁽²⁾を挿入し、
金剛球(5)が両方に嵌入するよう、円周方向
に数ヶ所配置され、外筒下部が拘束する
事にて、金剛球(5)を固定または自由にし、雌
形接手本体(1)と雄形接手本体(2)を着脱させ
るようになつてゐる。(ここでは、従来のファンタチ
接手構造である。)

外筒上部(3)、栓子部(6)、及外筒下部(4)と
一体になつています。

雌形接手本体(1)の外面と外筒上部(3)及
外筒下部(4)の内面を利用して、リング形の嵌入用
シリンダー(14)と離脱用シリンダー(13)を、Oリング
パッキン材(7)(8)(10)と(9)とで形成し、各シ
リンダーには嵌入用加圧回路(12)と離脱用
加圧回路(11)が導かれている。

いま、離脱用加圧回路(11)に加圧すれば、
離脱用シリンダー(13)に加圧され、外筒上部
(3)及外筒下部(4)は嵌入用シリンダー(14)
を圧縮;ストロー一杯まで拘束し、空所(5)
(2)

が、金剛球(5)の位置に来るので金剛球(5)は
自由になり、磁形持手本体(2)は、磁形持手
本体(1)より離脱する。

また、嵌入用加圧回路(12)に加圧され
ば嵌入用シリンダー(14)に加圧され外筒上部
(3)及び外筒下部(4)は離脱用シリンダー(13)
を圧縮しストローク一杯まで移動かし金剛球(5)
を空所(15)より内部へ押出し此形持手本体
(1)と磁形持手本体⁽²⁾を固定する。
3字記入

この考案は以上のように従来のワニタッチ持手
を簡単で改造する事にて遠隔操作にて着脱
を円滑かつ確実に行なうことが出来るし、地
の品物が接触し外筒上部(3)及び外筒
下部(4)を動かそうとする力が働きてお、嵌入用
シリンダー(14)、離脱用シリンダー(13)の反圧が
働き、これを防ぐ。また加圧にて外筒上部(3)
及び外筒下部(4)を動かさずして今日まで
ワニタッチ持手が採用されなかった大口径持手
に有利である。

機械にて操作するには、ハンドホルフ等を利用すれば十分作動させられる。

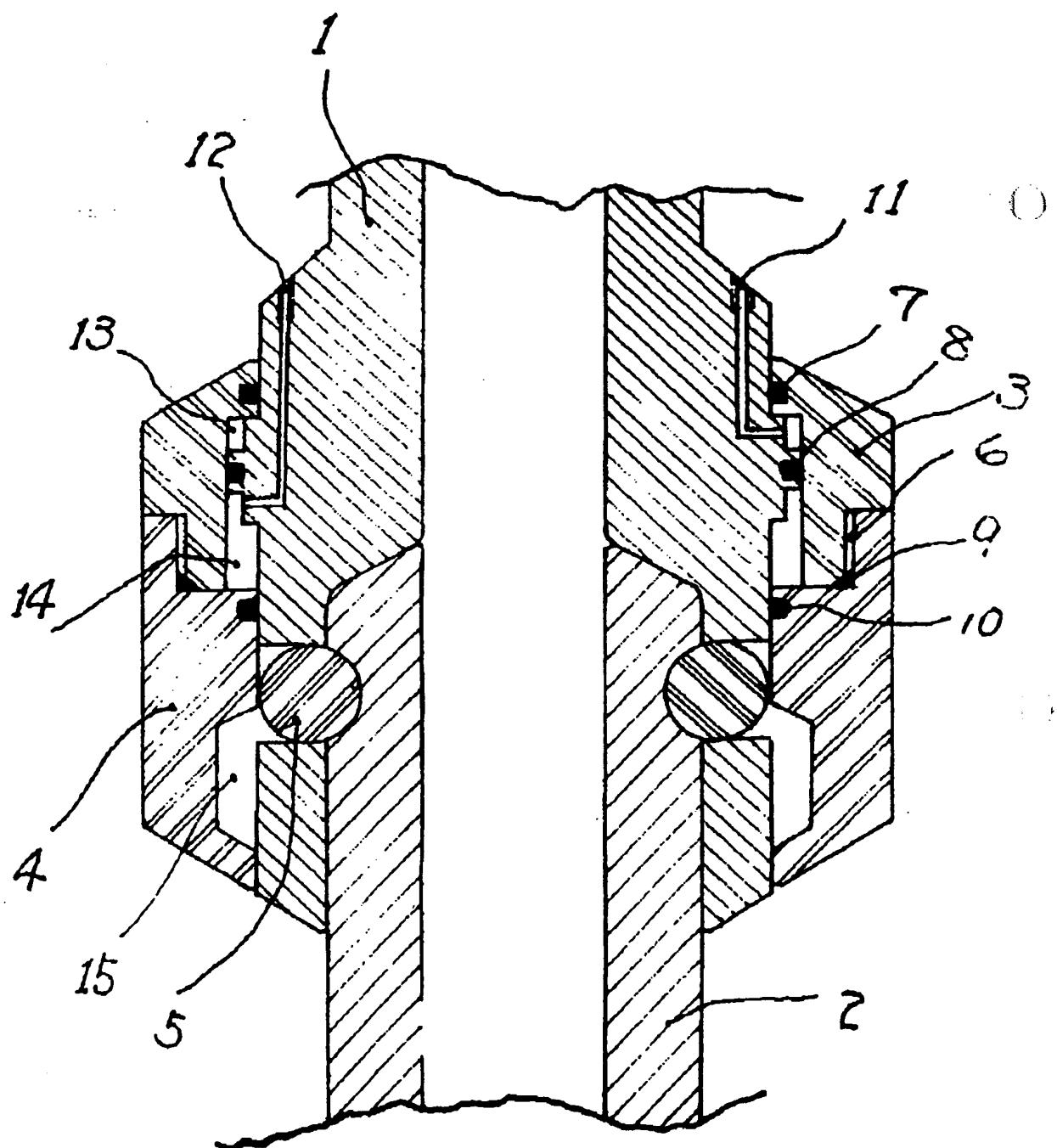
○ 4) 図面の簡単な説明

第1図は フィンガーホルフの縦断面図。

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. 扁形接着本体 | 11. 離脱用加圧回路 |
| 2. 球形接着本体 | 12. 装入用加圧回路 |
| 3. 外筒上部 | 13. 離脱用リリーフ |
| 4. 外筒下部 | 14. 装入用 リリーフ |
| 5. 鋼球 | 15. 空所 |
| 6. 樹子部 | |
| 7. O'リング パッキン材 | |
| 8. — " — | |
| 9. — " — | |
| 10. — " — | |

实用新案登録の願人
中村秀雄。
(4)

第1図



实用新案登録法原定人

中村秀雄

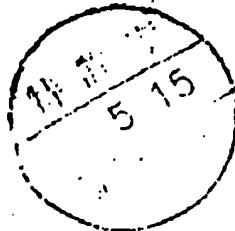
手 続 補 正 書(方式)

昭和53年5月12日提出
昭和53年5月11日

特許庁長官
(特許庁審査官)

殿
殿)

1. 事件の表示 昭和53年実用新案登録願第039737号
2. 考案の名称 遠隔操作にて着脱するワンタッチ接手
3. 事件との関係 実用新案登録出願人
- 住 所(居所) 兵庫県赤穂市元塙町12-15
- 氏 名 中村秀雄 (印)
4. 代理 人
- 住 所(居所)
- 氏 名 (印)
5. 補正命令の日付
6. 補正の対象
7. 補正の内容 願書 出願審査請求書 明細書の清書
(内容に変更なし)



70

取人
印紙
3,000円
貼付

(一円)

実用新案登録願

() 営和 53 年 3 月 29 日 ()

特許庁長官

殿

1. 考案の名称 遠隔操作にて着脱するワンタッチ接手

2. 考案者

フリガナ 住所(居所) 兵庫県赤穂市元塙町 12-15

フリガナ 氏名 中村 秀雄

3. 実用新案登録出願人

郵便番号 6 7 8 - 0 2

フリガナ 住所(居所) 兵庫県赤穂市元塙町 12-15

フリガナ 氏名 (法人にあつては会社名)
中村 秀雄

4. 添付書類の目録

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) (出願審査請求書 1 通) | |

70

BEST AVAILABLE COPY

明細書

1) 考案の名称

遠隔操作にて着脱するワンタッチ接手

2) 実用新案登録請求の範囲

離形接手本体(1)の外面と外筒上部(3)及び外筒下部(4)の内面を利用し、リング形のシンダーを形成し、内部に加圧させ、外筒上部(3)及び外筒下部(4)を移動させる事にて着脱する接手

3) 考案の詳細な説明

この考案は遠隔操作にて着脱するワンタッチ接手に関するものである。

従来のリンクタッチ接手は遠隔操作にて着脱が出来なかつたし、大口径の品物は非常に操作が困難であり、ワンタッチ接手が採用されなかつた。

また外筒に他の品物が当つても簡単に外れ不便であり高所の接手としては大変危険であった

この考案は簡単な構造にて上記の欠点を除去することを目的とする。

この考案を図面にもとづいて説明すると、
雌形接手本体(1)と、雄形接手本体(2)を挿入し、
鋼珠(5)が両方に嵌入するよう円周方向に數カ所配置され外筒下部が移動する事にて鋼珠(5)を
固定または自由にし、雌形接手本体(1)と雄形接手本体(2)を着脱させるようになっている。(こ
こまでは、従来のワンタッチ接手の構造である)
外筒上部(3)は栓子部(6)にて外筒下部(4)と一体に
なっています。

雌形接手本体(1)の外面と外筒上部(3)及び外筒下部(4)の内面を利用し、リング形の嵌入用シリ
ンダー(14)と離脱用シリンダー(13)を“b”リ
ングパッキン材(7)(8)(10)と(9)とで形成し、各
シリンダーには嵌入用加圧回路(12)と離脱用
加圧回路(11)が導かれている。

いま、離脱用シリンダー(13)に加圧され外
筒上部(3)及び外筒下部(4)は嵌入用シリンダー
(14)を圧縮しストローク一杯まで移動し、空
所(15)が、鋼珠(5)の位置に来るので鋼珠(5)は
自由になり、雄形接手本体(2)は、雌形接手本体

BEST AVAILABLE COPY

(1)より離脱する。

また、嵌入用加圧回路(12)に加圧すれば嵌入用シリンダー(14)に加圧され外筒上部(3)及び外筒下部(4)は離脱用シリンダー(13)を圧縮しストローク一杯まで移動し鋼珠(5)を空所(15)より内部へ押出し雌形接手本体(1)と雄形接手本体(2)を固定する。

この考案は以上のように従来のワンタッチ接手を簡単に改造する事にて遠隔操作にて着脱を円滑かつ確実に行なうことが出来るし、他の品物が接触し外筒上部(3)及び外筒下部(4)を動かそうとする力が働いても、嵌入用シリンダー(14)離脱用シリンダー(13)の反圧が働き、これを防ぐ。また加圧にて外筒上部(3)及び外筒下部(4)を動作さるので今までワンタッチ接手が採用されなかった大口径接手に有利である。

機側にて操作するには、ハンドポンプ等を利 用すれば十分作動させられる。

4) 図面の簡単な説明

第1図はワンタッチ接手の縦断面図

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. 雌形接手本体 | 11. 離脱用加圧回路 |
| 2. 雄形接手本体 | 12. 嵌入用加圧回路 |
| 3. 外筒上部 | 13. 離脱用シリンドー |
| 4. 外筒下部 | 14. 嵌入用シリンドー |
| 5. 銅球 | 15. 空所 |
| 6. 棘子部 | |
| 7. "O"リングパッキン材 | |
| 8. — " — | |
| 9. — " — | |
| 10. — " — | |

実用新案登録出願人

中村秀雄